

協和合金

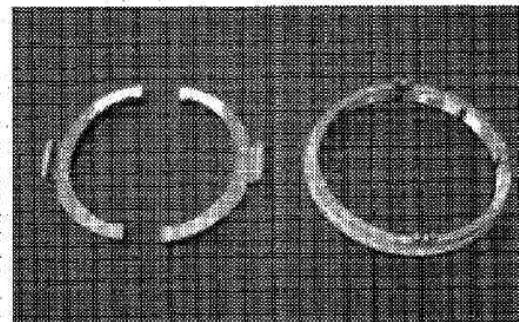
印チエンナイに新工場

シンクロナイザリング 9月生産開始

【横浜】協和合金（横浜
市金沢区、高島真澄社
長、045・772・1
331）は、インドで手
動変速機（MT）を構成
するシンクロナイザリ
ング（写真）を生産す
る。早ければ2012年

9月にも生産を開始す
る。土地の購入や工場の
建設、機械の導入などに
6億円を投資。同国での
需要増に対応し、14年度
には年間500万個生産
し、4億8（約6億円）

インド南部のタミルナ
ド州チエンナイ市に工場
を確保する。同社はイン
ド国内でMTシンクロナ
イザリングのシェアが
5割のナテサンシンクロ
コーンズ（タミルナド州
チエンナイ市）と、11年



11月に合弁会社の設立で
調印しており、現在、設

立登記の手続き中。
合弁会社「キョウワ
ナテサンシンクロテク
ノロジーズ」の資本金
は3億8（約4億50
00万円）で、出資比
率は協和合金が51%、
ナテサンは49%。社長
には協和合金海外事業
部長の岡田浩二氏が就
任する。
当初はチエンナイ市

ンナイ近郊の日系企業が
集まるピライパッカム、
オラガタムの2工業団地
から本工場の場所を選定
する。稼働は14年以降と
なる。従業員は現地採用
で初年度20人、14年度に
60人を想定している。
協和合金の海外生産は
95年の中国に続き、2カ
国目。日本国内での生産
・販売が減少に転じてい
る中、中国やインドで生
産体制を強化する。

インドではMT車の比
率が9割近くあり、需要
が旺盛。タタ自動車やマ
ヒンドラ&マヒンドラな
ど現地資本の車メーカー
への納入実績があるナテ
サンと組むことで、後発
のハンディを克服する。
今後、協和合金が日本
や韓国、欧州などで特許
を取得している「レバー
シンクロ」などの高付加
価値品を積極的に売り込
み他社と差別化する。